

再評価調書

事業名	阪南港 阪南4区 多目的国際ターミナル整備事業			
所在地	貝塚市二色北町地内			
再評価理由	事業採択後10年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	阪南4区における背後圏の一般外貿貨物を、他港で取り扱われている現状に対応すること及び物流コストの削減を図るため、多目的国際ターミナル(水深12m)の整備を行う。		
	内容	多目的国際ターミナル整備事業 岸壁(水深12m、延長240m) 航路浚渫(水深12m、133,000m³) 泊地浚渫(水深12m、610,000m³) 臨港道路(延長610m、2車線)		
	事業費	全体事業費：約63億円(約63億円) うち投資済事業費：約51.6億円 (内訳)用地費約-億円(約-億円) (内訳)用地費約-億円 工事費約63億円(約63億円) 工事費約51.6億円 ()内の数値は計画時点のもの		
	維持管理費	3百万円/年		
	上位計画	大阪府営港湾長期構想(あすぽーと21)(平成17年6月策定) 阪南港港湾計画(平成18年2月改訂)		
	関連事業	阪南4区港湾機能施設整備事業		
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	現時点での状況	分析 【完成予定の変更理由】
		事業採択年度：H9 事業着手年度：H9 完成予定年度：H19	事業採択年度：H9 事業着手年度：H9 完成予定年度：H19	
	進捗状況		(平成17年度末) 用地： - % 工事： 82%	
	途中段階の整備効果発現状況			H17岸壁が完成し、水深10m 暫定供用開始 引き続き H18 泊地・航路整備中
	事業進捗に関する課題	特になし		

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	現時点での状況	分析
		阪南4区における背後圏の一般外貿貨物を、他港で取り扱われている現状に対応及び物流コストの削減を図るため、多目的国際ターミナル(水深12m)の整備を行う。 計画貨物：337,000トン(背後圏の企業ヒアリング)	阪南4区における背後圏の一般外貿貨物を、他港で取り扱われている現状に対応及び物流コストの削減を図るため、多目的国際ターミナル(水深12m)の整備を促進中。 暫定供用済(H18・4) 計画貨物：329,000トン(港湾計画改訂推計貨物)	H19年度において整備完了目指している。
	地元等の協力体制		貝塚市では「貝塚市産業集積拠点における企業立地の促進に関する条例(平成13年10月1日)」を設け、立地企業等に奨励金を交付し、市内の産業集積拠点に企業立地の促進するための協力を得ている。	

		計画時の想定		現時点での状況（変更点）		分析
			備考			
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益分析の手法が確立されておらず、算出できず。		B / C = 1 . 3 6 便益総額 B = 9 6 億円 総費用 C = 7 0 億円 陸上輸送費用の削減便益 海上輸送費用の削減便益	「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」 平成 16 年 6 月 国土交通省港湾局 により算出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪南 4 区 (水深 12m) 岸壁を供用することによって、陸上輸送コスト削減が見込まれます。 ・ 併せて船舶の大型化に伴う海上輸送コスト削減が見込まれます。
	その他の指標（代替指標）					
事業効果の定性的分析	安全・安心	震災時等の阪南地域の物流輸送拠点		計画時と同じ		
	活力	外貿ふ頭の整備による阪南地区の物流拠点の形成により物流ネットワークの構築に伴う港及びその背後圏の活性化		計画時と同じ		
	快適性	阪南地区の物流の効率化による物資の迅速な供給が可能		計画時と同じ		
	その他					
自然環境等への影響と対策		陸上輸送距離の削減により環境への負荷軽減（NOX, CO2 の削減）		計画時と同じ		
その他特記すべき事項		<p>当事業については H 1 7 年度末現在 8 2 % の進捗であり、H 1 8 年度末までには泊地浚渫が完了し 9 8 % の進捗となる見込みである。</p> <p>さらに、H 1 7 年度岸壁が水深 12m で完成したことより、本来の機能を発現するため、引き続き、航路浚渫が必要。平成 18 年 4 月から水深 10m での暫定供用中である。</p>				